

2020年度卒業生を対象とした学修行動調査結果の概要

《調査の概要》

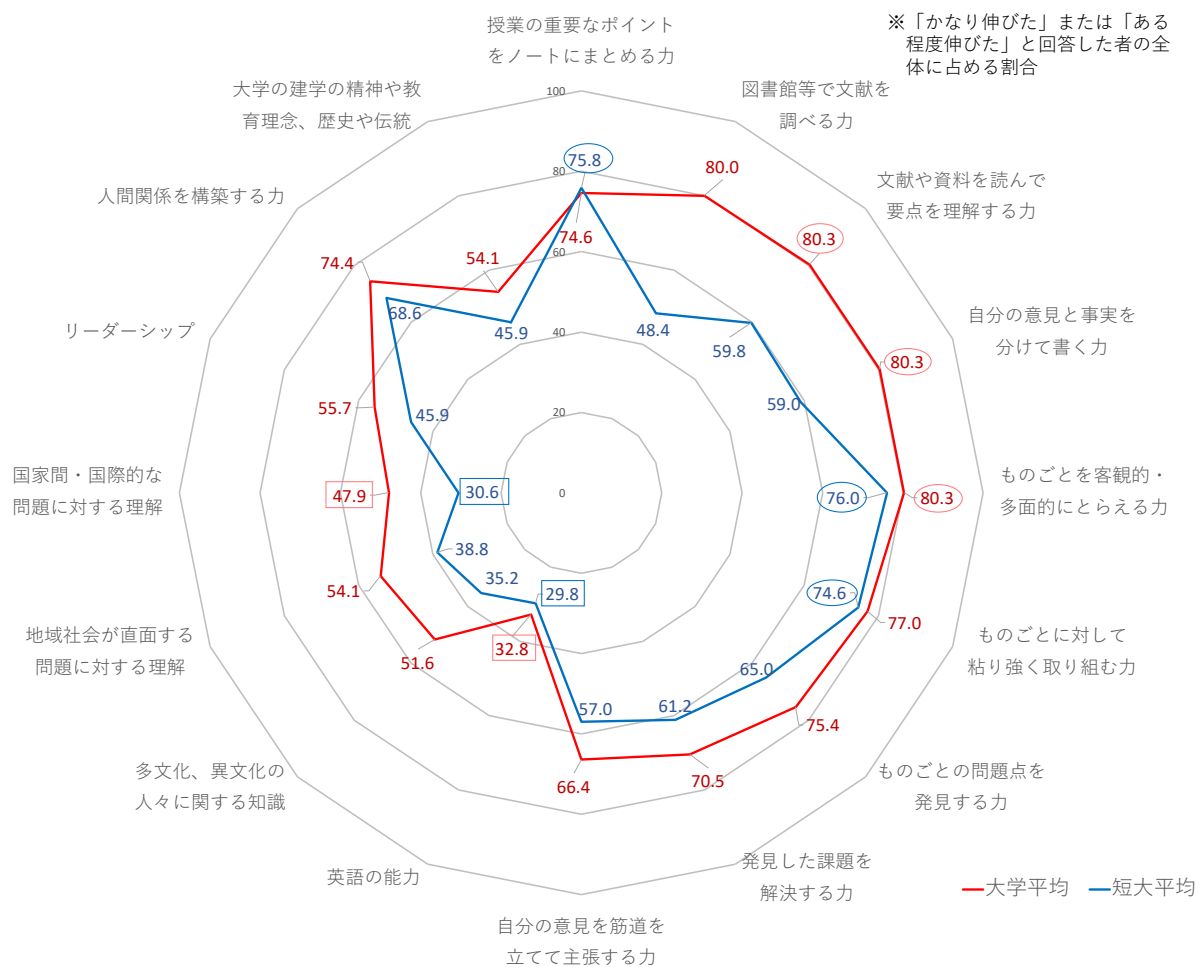
- 1 実施目的 本学学生を対象に毎年実施している「学修行動及びキャンパスライフ調査」の中から、2020年度卒業見込みの学生（大学4年生及び短大2年生）に係る、課程全体を通じた成長実感、本学の教育や学生生活に対する満足度などについて、集計・分析を行い、教育改革等に反映させるため。
- 2 実施日 2020年12月
- 3 実施形態 Webまたは調査票用紙での記名式回答
- 4 回答者数・回収率

学 科 名	学年	在籍者数	回答数	回収率	備 考
言 語 文 化 学 科	4 年	39	25	64.1%	
生 活 心 理 学 科		31	31	100.0%	
地域マネジメント学科		0	—	—	
看 護 学 科		70	67	95.7%	
大 学 計		140	123	87.9%	
健 康 栄 養 学 科	2 年	56	54	96.4%	
こ だ も 育 成 学 科		69	68	98.6%	
短 大 計		125	122	97.6%	
合 計		265	245	92.5%	

1 学習習熟度

- ・学習習熟度に関して、16項目について入学後の状況を尋ねた。
- ・入学後に伸びたものでは、大学では「文献や資料を読んで要点を理解する力」(80.3%)、「自分の意見と事実を分けて書く力」(80.3%)、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」(80.3%)が高く、「英語の能力」(32.8%)、「国家間・国際的な問題に対する理解」(47.9%)が低かった。
- ・短大では、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」(76.0%)、「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」(75.8%)、「ものごとに対して粘り強く取り組む力」(74.6%)が高く、「英語の能力」(29.8%)、「国家間・国際的な問題に対する理解」(30.6%)が低かった。

学習習熟度－入学後の伸び－



学習習熟度（入学後の伸び）

No	項目	大 学				短 大			合計
		言語文化	生活心理	看護	大学平均	健康栄養	こども育成	短大平均	
1	授業の重要なポイントをノートにまとめる力	62.5	71.0	80.6	74.6	77.4	74.6	75.8	75.2
2	図書館等で文献を調べる力	87.0	80.0	77.6	80.0	44.4	51.5	48.4	64.0
3	文献や資料を読んで要点を理解する力	83.3	71.0	83.6	80.3	57.4	61.8	59.8	70.1
4	自分の意見と事実を分けて書く力	70.8	83.9	82.1	80.3	48.1	67.6	59.0	69.7
5	ものごとを客観的・多面的にとらえる力	75.0	77.4	83.6	80.3	75.9	76.1	76.0	78.2
6	ものごとに対して粘り強く取り組む力	75.0	67.7	82.1	77.0	66.7	80.9	74.6	75.8
7	ものごとの問題点を発見する力	66.7	71.0	80.6	75.4	58.5	70.1	65.0	70.2
8	発見した課題を解決する力	75.0	64.5	71.6	70.5	50.9	69.1	61.2	65.8
9	自分の意見を筋道を立てて主張する力	66.7	61.3	68.7	66.4	48.1	64.2	57.0	61.7
10	英語の能力	50.0	35.5	25.4	32.8	13.2	42.6	29.8	31.3
11	多文化、異文化の人々に関する知識	95.8	48.4	37.3	51.6	24.1	44.1	35.2	43.4
12	地域社会が直面する問題に対する理解	66.7	61.3	46.3	54.1	24.1	50.7	38.8	46.5
13	国家間・国際的な問題に対する理解	79.2	46.7	37.3	47.9	22.2	37.3	30.6	39.3
14	リーダーシップ	45.8	61.3	56.7	55.7	37.0	52.9	45.9	50.8
15	人間関係を構築する力	65.2	80.6	74.6	74.4	64.8	71.6	68.6	71.5
16	大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統	70.8	58.1	46.3	54.1	38.9	51.5	45.9	50.0

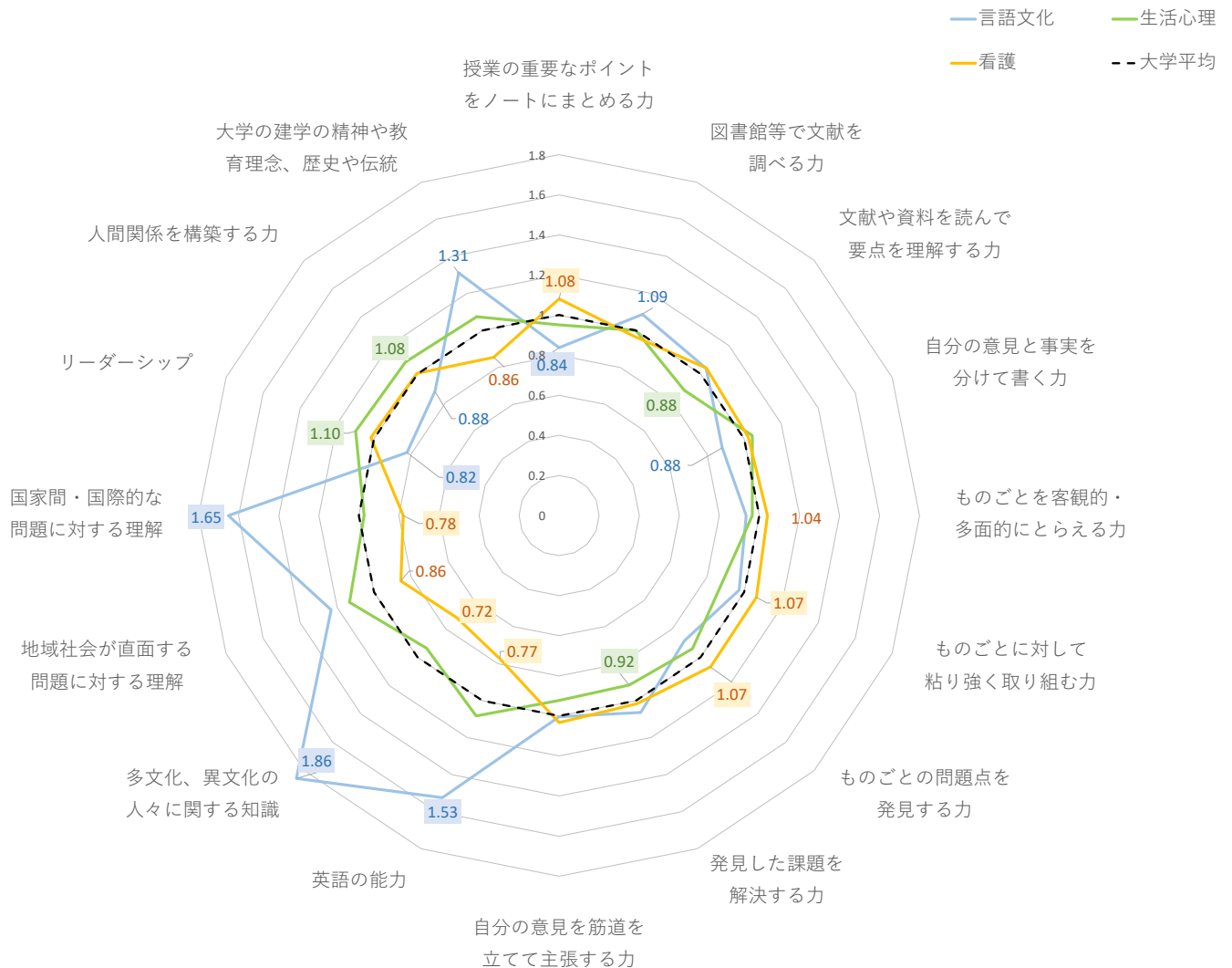
○学科ごとの比較

・入学後の伸びについて、各項目ごとに大学平均を1とし、各学科の数値を算出し、比較した。

(1) 大学

- ・言語文化学科では、大学平均と比較すると、「多文化、異文化の人々に関する知識」、「国家間・国際的な問題に対する理解」、「英語の能力」が高く、「リーダーシップ」、「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」が低かった。
- ・生活心理学科では、「リーダーシップ」、「人間関係を構築する力」が高く、「文献や資料を読んで要点を理解する力」、「発見した課題を解決する力」が低かった。
- ・看護学科では、「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」、「ものごとに対して粘り強く取り組む力」、「ものごとの問題点を発見する力」が高く、「多文化・異文化の人々に関する知識」、「英語の能力」、「国家間・国際的な問題に対する理解」が低かった。

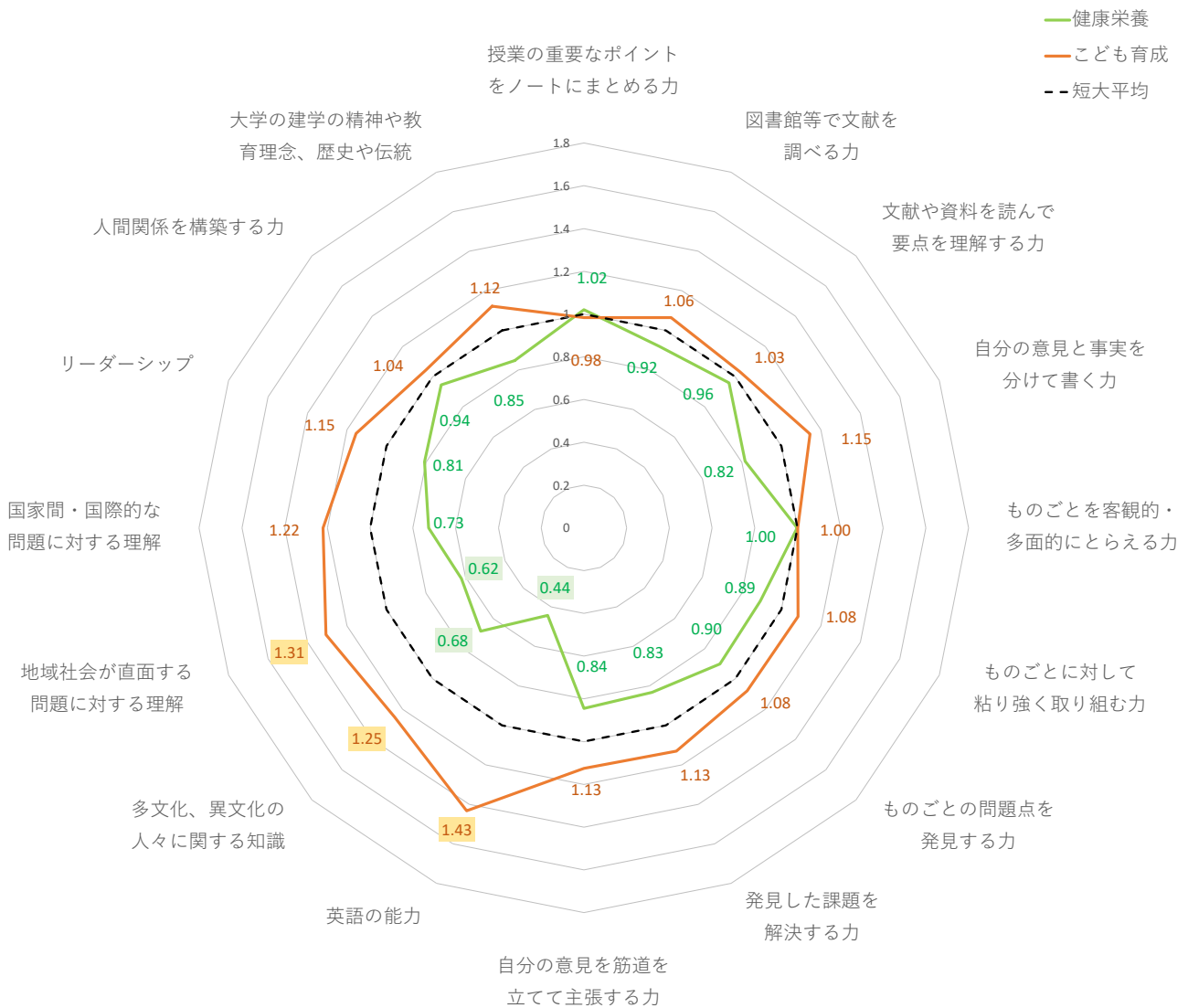
入学後の伸び（学科別） 大学平均=1.00



(2) 短期大学

- ・「英語の能力」、「地域社会が直面する問題に対する理解」、「多文化・異文化の人々に関する知識」では、健康栄養学科は短大平均を大きく上回り、こども育成学科と大きな差があった。
- ・「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」、「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」では、両学科間で大きな差はなかった。

入学後の伸び（学科別） 短大平均 = 1.00

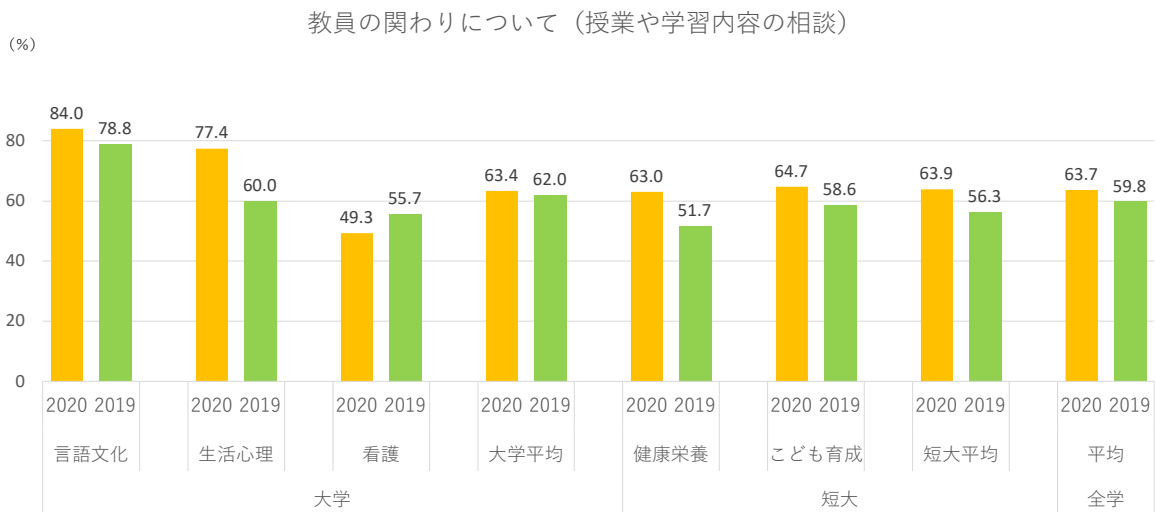


2 大学生生活等についての満足度

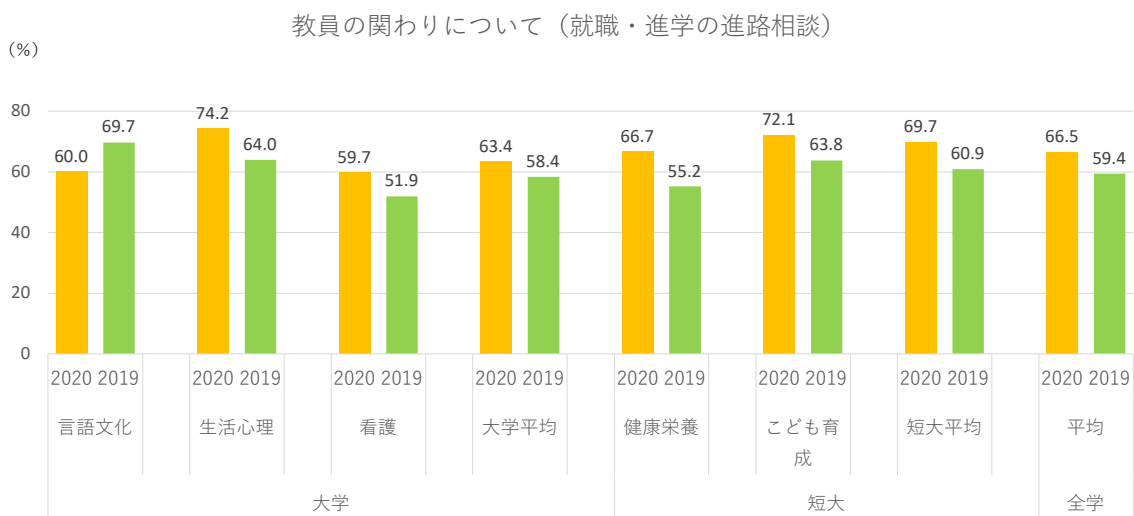
教員との関わり、大学生生活、本学の教育全般についての満足度を尋ねた。

(1) 教員の関わりについての満足度

教員の関わりについての満足度は、授業や学習内容の相談では、前年度に比べて、大学では1.4ポイントの増、短大では7.6ポイントの増、全学では3.9ポイントの増となった。
就職・進学の進路相談では、前年度に比べて、大学で5.0ポイントの増、短大で8.8ポイントの増、全学で7.1ポイントの増となった。



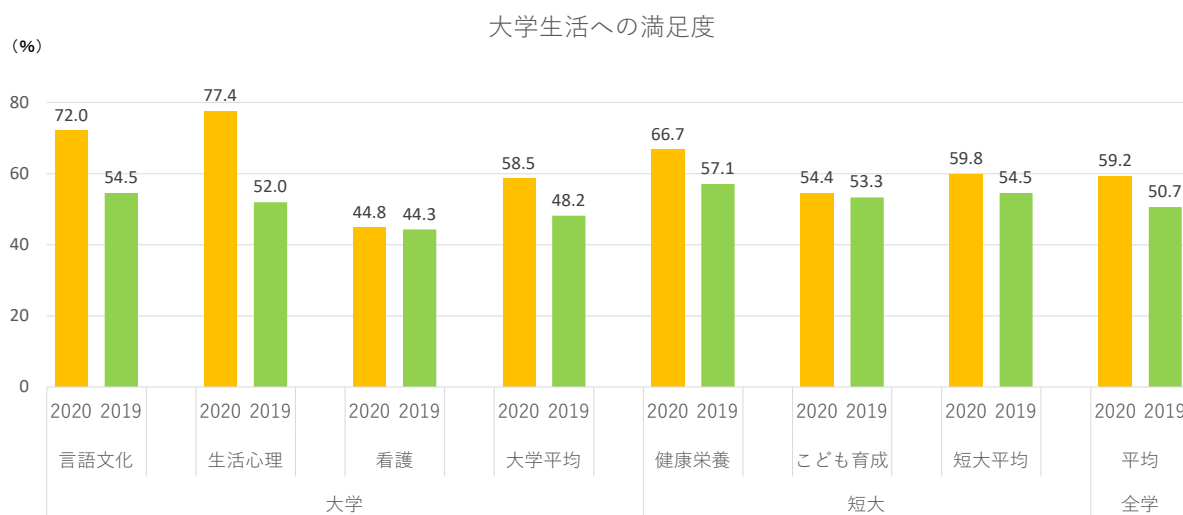
※「満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の全体に占める割合



※「満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の全体に占める割合

(2) 大学生活についての満足度

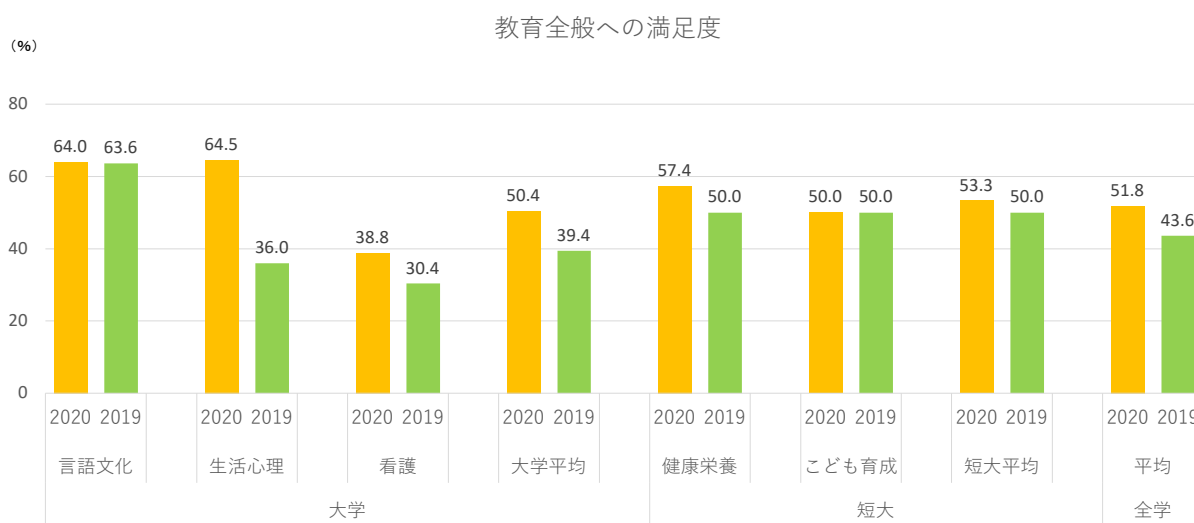
大学生活についての満足度については、前年度に比べて、大学では10.3ポイントの大幅増、短大では5.3ポイントの増、**全学では8.5ポイントの大幅増となり、全ての学科において、前年度を上回った。**



※「満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の全体に占める割合

(3) 教育全般についての満足度

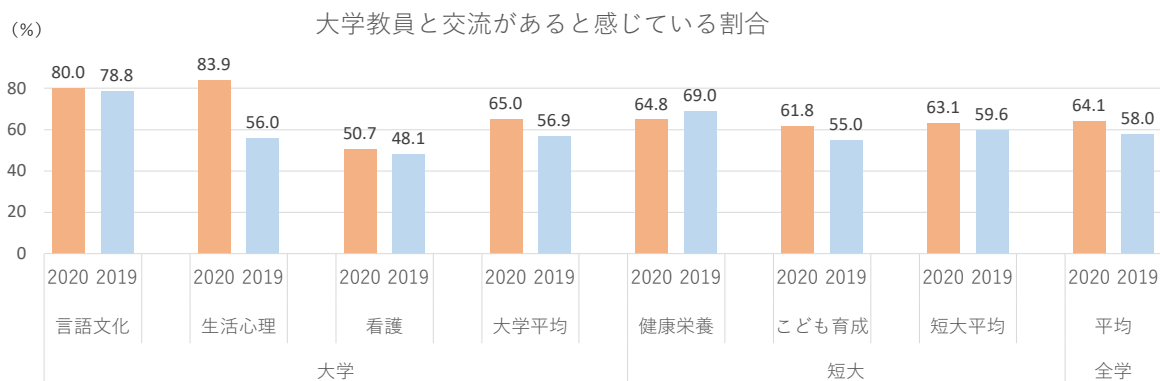
教育全般の満足度については、大学で11.0ポイント大幅増、短大で3.3ポイント増、**全学では8.2ポイント増となり、前年度と同じだったこども育成学科以外の学科では前年度を上回った。**



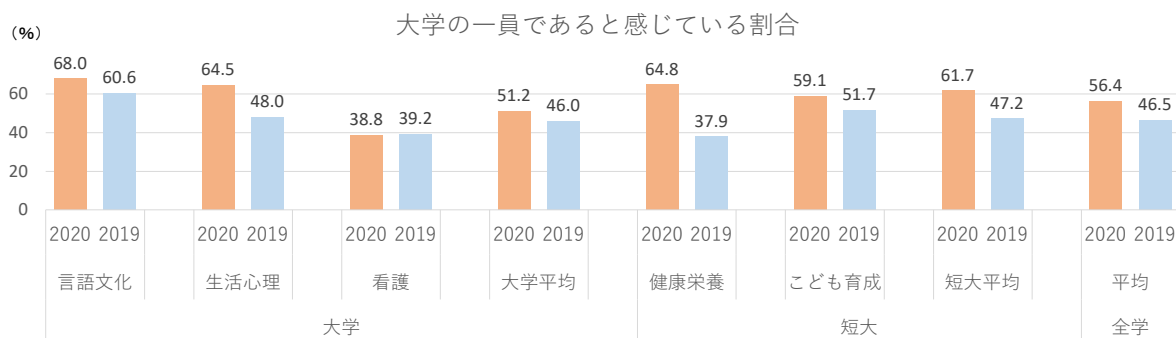
※「満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の全体に占める割合

※参考 大学生活を過ごす中での実感等

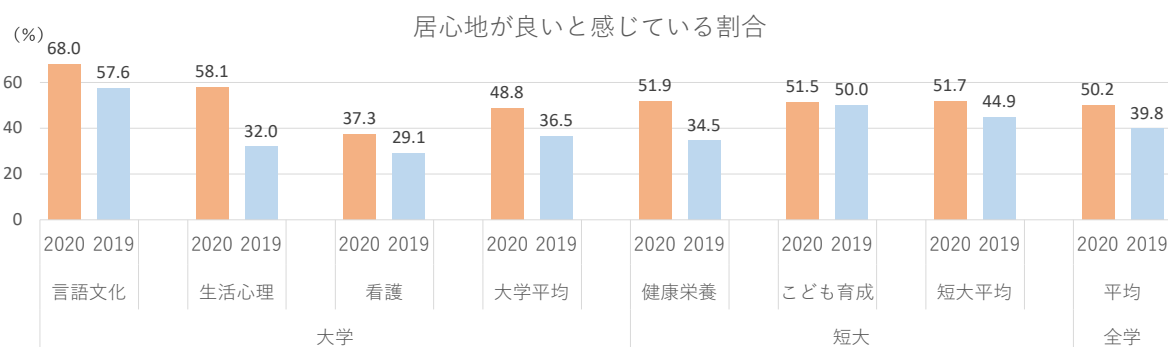
- ・「大学教員と交流があると感じている」割合は、前年度に比べて、大学で8.1ポイントの増、短大で3.5ポイントの増、全学で6.1ポイントの増となった。
- ・「大学の一員であると感じている」割合は、大学で5.2ポイントの増、短大で14.5ポイントの増、全学で9.9ポイントの大幅増となった。
- ・「居心地がよいと感じている」割合は、大学12.3ポイントの増、短大で6.8ポイントの増、全学で10.4ポイントの大幅増となった。
- ・「愛着心がある」割合は大学で3.9ポイントの増、短大で1.2ポイントの増、全学で1.9ポイントの増となった。
- ・以上のとおり、4項目とも、大学、短大、全学で前年度を上回った。



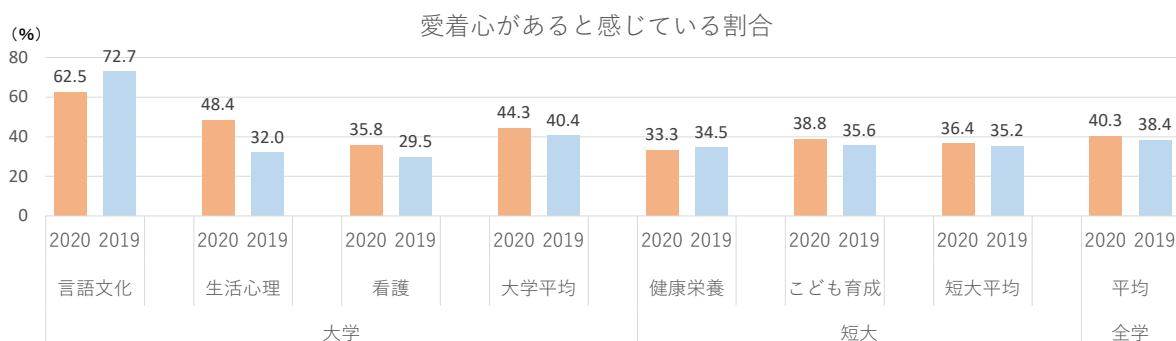
※「とても感じる」または「ある程度感じる」と回答した者の全体に占める割合



※「とても感じる」または「ある程度感じる」と回答した者の全体に占める割合



※「とても感じる」または「ある程度感じる」と回答した者の全体に占める割合



※「とても愛着がある」または「ある程度愛着がある」と回答した者の全体に占める割合